



公益財団法人 岩手県国際交流協会



2011いわて国際交流 Autumn Vol.71



特集▶わたしたちの3・11

～岩手に生きる一人として～

01-03 座談会「震災と在県外国人」

そのとき協会は

04-06 沿岸の外国人は今

■妊娠7カ月で被災して出産

■日本のみんなを応援したい

■自分ができること

07-08 Close Up

■TEX-MEX料理 SUNDANCE

■在盛岡フィリピン共和国名誉領事館

09 東日本大震災被災地実例研修会
での報告から

10 平成22年度の事業および財務の状況

あなたも賛助会員になりませんか

趣旨に賛同し、事業を支えてくださる賛助会員を募集しております。

賛助会費は、県内の国際交流・国際協力・多文化共生の公益目的事業に役立てられます。

会員の特典

- ①協会の発行物をお届けします。
国際交流情報紙「Jien go」
※学生会員はメールマガジンでの情報提供となります。
協会機関誌「いわて国際交流」
- ②協会主催の催し等の案内をいち早くお届けします。
- ③協会主催のイベントやセミナーの参加費が優待割引になります。
- ④「エスニックレストランマップ」をお届けします。提携している店舗で各種サービスが受けられます。
- ⑤「旅行優待マップ」をお届けします。提携している店舗で各種サービスが受けられます。
- ⑥税制上の優遇措置が受けられます。

年会費

①個人会員…1口 3,000円

②団体会員…1口 10,000円

③学生会員…1口 1,000円

協会所定の振込用紙で、指定の銀行よりお振込みいただくと手数料はかかりません。お気軽にお問い合わせください。振込用紙を送付いたします。協会でも受け付けいたします。

表紙写真／盛岡さんさ踊り「世界はともだち」チーム

8月2日、在住外国人、震災で被災した方を含む盛岡市、宮古市から迎えた皆様とともに総勢100人で盛岡さんさ踊りに参加しました。

編集後記

▶ピクターさんは日本に永住したいくらい日本が好きだそうです。周りの人との絆を大切にする好青年でした。(ひ)

▶忙しい日々の中で2時間を超えてのインタビュー。言いたいことがあふれ出てきてびっくりしたけど貴重なひとときだった。(森)

▶出会った人にワクワク、会話をドキドキ。目に見えない手でも触れないお宝発見!(non)

▶10年単位の時間がかかる、といわれている被災地の復興。なのに、たった数ヶ月で「あの日」を遠く感じている自分がいます。ずっと目を向け続けることは案外難しい。声を聞いて、声に出して、文字にしていけないと。(S)

▶あの日から半年。猛暑の夏が過ぎ、そして実りの秋。大好きなさんまの季節。今年も三陸産のさんまをたくさん食べよう。背伸びせず、毎日の生活で、できることをしていきたい。(はお)

▶震災と在住外国人を現在進行形で伝えたい。本年度は5年ぶりに2回機関誌を発行します。次回は来年3月、復興を支える外国人を特集予定です。(美)

寄附のお願い

協会は、県民の方々が世界に目を広げ、国際社会で活躍できるよう、また、県内在住外国人の方々が生活しやすいよう、さまざまな国際交流・国際協力の事業を行っております。活動をより充実していくとともに、民間の立場から国際交流・協力を通して地域の発展や活性化に寄与して参ります。協会の活動を長期的に継続的に、かつ積極的に展開していくため、協会の財政基盤の充実にご支援ください。

※協会に寄附をされた方は、税法上の損金参入や寄附金控除が認められます。詳細は、お問い合わせください。

ニウエ語の研究に永年尽力された遠藤澄さん(盛岡市)から、ご自身が翻訳・編集された「ニウエ語辞典」を寄贈いただきました。



エスニックレストランマップ提携店
「EAST ASIA」
大船渡市盛岡町内ノ目12-4

アンケートプレゼントの「さきり織りリストバンド」を紹介していただきました。

「津波で店内には丸太やドラム缶、ヘドロが入り、どれが商品で、どれが流れ込んだものか選別するのも大変でした。お客様にも手伝っていただき、5月中旬には食事を出せるまでになりました」(店長 熊谷栄美さん)

国際交流センター(アイ・いわて県民情報交流センター5F)
開館日/毎日 開館時間/9:00~21:30 休館日/年末年始

アクセスマップ

交通のごあんない
・JR盛岡駅から徒歩4分
(東西自由通路経由)
・東北自動車道盛岡ICから車で8分



【編集】いわて国際交流編集委員会

【編集長】中村美香子

【編集委員】大高久枝/大森不二夫/澤館信子

鈴木いつみ/村井好子

【アドバイザー】高橋宏男

【発行】公益財団法人 岩手県国際交流協会

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号

TEL.019-654-8900 FAX.019-654-8922

【印刷】山口北州印刷株式会社

〒020-0184 盛岡市青山4丁目10番5号

TEL.019-641-0585 FAX.019-648-1026

※本誌掲載の記事、イラスト・写真の無断転載、複写を禁じます。



席 時宜さん
シ シー

- ①中国・上海
- ②20年
- ③岩手県立不來方高校中国語講師
- ④慌てることなく家を見回り、ろうそくと電池を買いに行った。

席さん 避難所はないですね。だいたい広場に集まります。
ホールさん 竜巻があるところは、家によって地下に避難する場所があります。ニューオリンズの Katrina（ハリケーン）のときは、アリーナに避難したようです。危険な場所なら何か避難の制度はあると思います。
スミスさん オーストラリアの南の

母国では自然災害などの防災対策や、避難所などがありますか？

に乗ってくれます。日本語があまりできない人、困っている人はもって国際交流協会に連絡したほうがいいですね。でも、そういう人たちはネットワークがないから分からない。例えば日本語をあまり話せないで、お嫁さんに来る人とか特定して、情報を発信してはどうでしょう。

座談会

震災と在県外国人

インターネット、ラジオで英語・中国語での情報提供をし、岩手県国際交流協会にくる国内外からの問い合わせに対応した在県外国人の皆さんに、自身の体験とともに感じたことを聞きました。

<参加者プロフィール>

- ①出身地 ②岩手県在住年数 ③職業 ④地震発生時は

2011年3月11日に発生した東日本大地震・津波。多言語での情報支援が必要となる外国人は「災害弱者」といわれます。その一方で、家族を支え、互いに支え合う外国人の姿には、「多文化共生社会」の一端が垣間見えました。岩手に暮らし、地域とつながり、人とのきずなを築いてきた県内に住む外国人の震災体験を特集します。

特集 わたしたちの3・11 ～岩手に生きる一人として～

外国人からの問い合わせとラジオで流した情報を教えてください。

スミスさん 自分の国に帰りたいけど日本語があまり話せないで、（手続きの）準備をしてほしいというのがありました。みんなが帰っていくので寂しくなり、だんだん不安になりました。

鄭さん ラジオでは津波や余震の現状を伝えました。交通情報、ライフラインの情報も流しました。協会にかかってきた電話は家族の安否の確認で、中国からも岩手県内からもありました。

スミスさん 避難所で必要な物資の放送はラジオで流してよかったです。周さん 借りていた本を返しに行けないと電話がかかってきたけど、心細

くて話し相手もほしんじゃないかと思ってちょっと話をしました。
席さん 頼るルートはいっぱいあるけど、国際交流協会のホームページもひとつだと思えます。大使館のホームページとか。

国際交流協会を知らない外国人もいるようですが、今後の課題は？

ホールさん 外国人を雇用している会社と協力し、国際交流協会のパンフレットを渡すとか。オリエンテーションで、こういうところがあるよという話をしておけば。

スミスさん 国際交流協会があるのは知っているけど、どんなことをやっているのか分からない。
ホールさん いろいろなことの相談



周さん 前から夫にしつこく言っただけで買ってもらった手回し充電のラジオを聞いていました。
ホールさん 盛岡三高の体育館に2日間くらい避難しました。体育館では灯油や食べ物をもたないで持ち寄り共有したので困りませんでした。
鄭さん 私は県の公舎に住んでいて、

今回、皆さんはどのようにしてましたか？その経験から気付いたことはありますか？

ほうでは森林火災がひどいので、いろいろ制度があります。携帯電話で情報をもらい、近所にはスピーカーで放送されます。消防署で毎年、雑誌を出版してみんなにあげています。

ます。自分で作ったけどあまり重視していなかったで、避難用品などは用意していませんでした。今回は最低限のものは用意したほうがいいと思いました。

訳したことがあり

席さん 以前、地震になったときどうしたらいいか、県の防災パンフレットを中国語に

他の国際交流員と一緒にいました。県庁には自家発電機があったので夜12時からいまだ県庁にいて、翌日、ラジオで津波情報や地震情報を伝えました。



James Hallさん
ジェームズ ホール

- ①アメリカ・マサチューセッツ州・ボストン
- ②9年
- ③岩手大学教育学部准教授
- ④妻に電話したが通じず、自転車で子どもたちを捜しに行った。

ラジオ

「海や川に近づかないように呼びかけ、停電のとき、給水場所なども放送しました。放送中も余震が続いていたので、沿岸の人たちが心配でした」（クリップスさん）

- ◎余震や津波などの注意報・警報
- ◎国内を移動するための交通情報
- ◎パスポート、運転免許証、預金通帳の紛失に関する手続きの方法
- ◎多言語で相談できる電話番号の案内

NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、エフエム岩手で3月30日まで英語・中国語で放送する時間を確保してもらいました。

インターネット

被災者への支援情報をホームページに掲載し、ツイッター、フェイスブックでも配信しています。

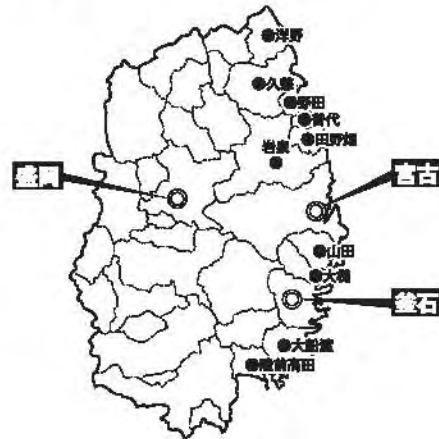
- 医療・福祉
- 多言語相談窓口
- 交通情報
- 義援金の受付窓口
- 公共料金の支払い
- 奨学金情報
- ボランティア情報
- 運転免許証やパスポートの更新手続き
- 雇用やお金に関する相談窓口

電話

「外国人が帰国ラッシュになっている中、対応してくれる人を確保するのも大変だったと思います。災害時にボランティアで多言語支援できる外国人のネットワークを作っておくことも大事かと思っています」（崔さん）

- ボランティア受け入れ先の紹介
- 家族、友人、知人の安否確認
- 県外、国外への避難方法
- 宿泊先の紹介
- 通訳の派遣依頼
- バス、相乗りタクシー、航空券の手配
- 外国メディアへの対応
- 大使館・領事館からの連絡

外国人の安否確認や被災者支援の情報を調べ、問い合わせに備えました。座談会の参加者のほか、崔華月さん、亀田金花さん、呂治さん、アマンダ・クリプスさん、デビット・ルテラさんにも、ラジオ放送や通訳・翻訳など外国人への対応にご協力をいただきました。



沿岸の外国人は今

沿岸で暮らしている外国人は震災発生時、どのように行動し、今、何を感じているのでしょうか。宮古市から盛岡市に避難した金野美咲さん、田野畑村に住み宮古市で被災したビクター・コチャブムさん、陸前高田市に住み災害ボランティアをする細谷マリアテレサさんの3人に話を聞きました。

金野美咲さんは、6月7日、避難先の盛岡市内の産婦人科で3030グラムの女の子を出産しました。名前は、優里ちゃん。夫の要さんが、ママの美咲さんのように優しい子になるようにという願いを込めて命名しました。

3月11日震災当日は、義父母とともに宮古市内の歯科にいました。予約が2時半で、診療台に座り、治療が始まろうとしたときに地震が発生。津波を免れた歯科院内でそのまま余震が落ち着くのを待ちました。夜になって、歯科の近くの合同庁舎に避難。夫



妊娠7カ月で被災 そして出産

金野美咲さん
(宮古市)

生後1カ月の優里ちゃんと美咲さん

は、仕事で釜石にいました。地震直後「早く逃げろ」というメールを受け取りましたが、その後、連絡がとれなくなり、5日後に再会できました。

海岸近くにあった自宅は、津波で流されてしまいました。家族は無事でした。

中国の両親には、メールで連絡しましたが、電話がなかなか通じず10日ほどしてやっと話すことができました。電話に出た父親は、「一人っ子でのんびり屋だから、逃げ遅れたのではなにかと心配した。インターネットで探したが、連絡が取れず、もしかしたら、亡くなったのではと思っていました」と話したそうです。

美咲さんは、妊娠7カ月で被災。すぐにも中国へ一時帰国をしたいと思いましたが、体調や交通事情を考えるととまどいました。避難所を3カ所移動した後、5月の連休明けに盛岡市内の雇用促進住宅に入居しました。

避難当初は、1日におにぎり1個という日もあり、十分栄養がとれない状況でした。夫は、美咲さんに毎日おなかの赤ちゃんが動いているか確かめました。避難所では、栄養がとれるよう



避難先の宮古市立山口小学校
優里ちゃんはまだおなかの中

PROFILE

金野美咲さん

2010年8月来日、宮古市の自営業の金野美咲さんと結婚。来日前には、働きながら2年間日本語を勉強。24歳、中国・大連出身。

に、周りの人が気遣ってくれました。出産は、予定していた宮古の病院から盛岡の病院に変わりましたが、幸い母子手帳を持っていたので、無事に出産を迎えられました。

「産婦人科では、出産や育児に必要なものを用意してもらい、本当に感謝しています」と美咲さん。

来日後1年で、妊娠、大震災、出産を経験した美咲さんは、新米ママとして奮闘中。

美咲さん、そして中国と日本の文化を受け継ぐ優里ちゃんにとって、岩手が名前のように「優しい古里」であってほしいです。



Hamish Smithさん
ヘイミッシュ スミス

- ①オーストラリア・ビクトリア州・メルボルン
- ②1年半
- ③岩手県立盛岡北高校外国語指導助手
- ④近くにいた見ず知らずのおばあちゃんが自分の胸にしがみついていた。

ホールさん 避難場所という看板を見て、何のために避難場所があるのかなと思っていました。地震があつて、このためだと気がつきました。私たちはラッキーなほうです。住民のネットワークがあり、助け合うような友だちがたくさんいます。でも日本に来たばかりの外国人、日本語が話せない人、友だちがあまりいない人だったらどうしていいでしょう。

スミスさん 震災前、同じアパートにいた人たちにあいさつをしても、返してくれませんでした。震災後、米を多めに買ったので彼らに米をやりかきつて聞いたら、ありがたうって言うてくれました。それから彼らが牛乳とか買えれば僕に持ってきてくれて、今ではあいさつしてくれるようになりました。多分、彼らは僕が日本語を話せることを知らなくて、緊張してあいさつしなかったかもしれませんね。



周麗娜さん
ジウ リナ

- ①中国・浙江省・龍遊
- ②4年
- ③紫波町立小中学校のスクールヘルパー
- ④初めての巨大地震の体験で泣き止まなかったが、児童の前では強気に振る舞った。

日本人同士でもあいさつをしてくれないこともあります。今回をきっかけに交流ができて良かったですね。他に何か必要だと思ったことは？

ホールさん いろいろラインが復旧するか、食料などの流通が戻るか。買いためしないように、パニックにならないようにとテレビで呼び掛けていたけど、日本語が分からなければその見通しが分からなかった。

スミスさん ボランティアをしたかったけれど、当時は支援物資を届けるとか掃除をするとか、日本語で会話をしなければならぬので日本語が話せない外国人は邪魔になるかと思いましたが、車もネットワークもないからどうすればいいかわからない。盛岡に住んでいる外国人が手伝いたいとき、どうしたらいいかという情報があればいいですね。



鄭曉美さん
ジョン シャオメイ

- ①中国・遼寧省・大連
- ②1年半
- ③岩手県国際交流員
- ④地震発生時は県庁で仕事。翌日からラジオ局に行き中国語で情報提供した。



座談会を終えて

いざというとき、悩みがあるとき、何かを始めたいとき、国籍・人種を問わず何が大切か座談会の中にヒントがあるような気がします。

皆さんは震災から何を考え、実際どんなことをしていますか？

被災地巡回

外国人の状況を確認

外国人からの聞き取り

協会の外国人支援体制の周知依頼

大使館からの情報を提供

多言語放送についての助言

避難所

社会福祉協議会
(災害ボランティアセンター)

災害FM局

東海新聞社



オックスファム・ジャパン寄贈の
手動式充電式ラジオを被災地や
在住外国人に配布中

情報紙

被災者の支援情報や相談窓口を載せ、避難所や沿岸市町村の国際交流協会に配布しています。



情報紙 jien go 臨時号は
日本語・英語・中国語の併記

公共交通機関が動き出した3月18日に初めて被災地に入りました。



「煮しめも作るよ。茶わん蒸しに味付けごはん、漬物も」と明るく話すマリアテレサさん



自分が できること

マリアテレサさん
(陸前高田市)

災害ボランティアの名札を手に活動をするマリアテレサさん

「来日したときは周りの人たちにたくさん助けてもらったから、今度は、自分ができるところをやって被災した人たちに助けたい」と、震災後すぐにボランティアセンターに登録し、ボランティア活動をしているマリアテレサさん。老人ホームや避難所回り、物資の仕分けにがれき処理。「ばあちゃんの家にいるから15時まで活動ができるよ」。

「来日したときは周りの人たちにたくさん助けてもらったから、今度は、自分ができるところをやって被災した人たちに助けたい」と、震災後すぐにボランティアセンターに登録し、ボランティア活動をしているマリアテレサさん。老人ホームや避難所回り、物資の仕分けにがれき処理。「ばあちゃんの家にいるから15時まで活動ができるよ」。



▲5月13日、陸前高田市、大船渡市のフィリピン出身者が久しぶりに集合（前列左がマリアテレサさん）

白い泡が浮かんでいて、それがどんなに近くなってきたら、大きな黒い壁になってきて、本当に怖かった。友達の家もアパートで働いていた会社も潰れました。幸い建設会社勤務の夫も3人の子どもたち、そして義父母もみんな無事。息子は震災後クラブ活動をやめ、ボランティア活動を始めました。

日本でがんばりたい

夫の会社も被災、



▲被害が大きかった地域の小学校。夏休みのプール当番は災害ボランティア

マリアテレサさんもパートを失い、子どもの学費など生活の不安が募ります。料理が好きなマリアテレサさんは、就職の機会を増やすために「調理師の免許を取りたい」といいます。また、被災したフィリピンの友人たちを気遣い、「フィリピンに一時帰国したい気持ちもあるけれど今はここでみんなと一緒にがんばりたいです」。

PROFILE

細谷マリアテレサさん

陸前高田市に嫁いだ初めてのフィリピン人女性。45歳。高校2年の息子、中学校3年と小学校3年の娘がいる。今では賞金稼ぎが自然に飛び出します。



「その日は帰国予定の宮古の友だちと宮古市内のレストランで昼食を取

3月11日



日本の みんなを 応援したい

ビクター・コチャプムさん
(田野畑村)

Victor Kochaphum

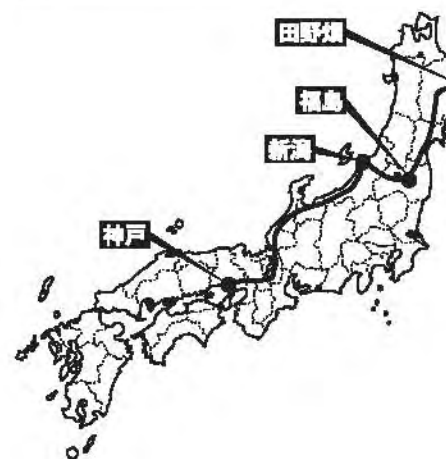
福島原発事故で帰国した人は多かったが、「わたしは宮古地区との絆が深いから帰国しなかった。大事なときに、応援が必要と思った」。3年間、いろいろな活動を通して友だちが増えたという。「両親から帰国してほしいといわれました。海外では間違った情報が流れたから。日本の現状を知らせ安心していいと説得しました」。

神戸へ

3週間後、関西の友だちを通して、帰国する外国語指導助手の日用品な

り、お金を払ったところでした。サンフランシスコでも震度7弱の地震を経験したことがあるビクターさん。「携帯電話のワンセグでは、確か大津波警報という画面が出ていた。友だちは海沿いのアパートに避難したが、わたしはわたしは高台に行きましようと言いました」。

震災事故への不安



どが神戸市教育委員会にあるという情報を得て、「4月15日、軽自動車です16時間かけて」神戸へ。「岩手ではコンビニとか商品何もなくて、新潟に入ってから、普通通り商品とかいっぱい」とびっくり。どうして神戸まで？「友だちにわたしは無事だと伝えなかった。東北以外の地域は大丈夫か知りたかった」。ニュースで支援物資が足りないことを聞き、取りに行くことにしました。



▲この部屋に外国人5人と友人家族4人が一緒に

これから

「周りのみんなは防災かばんを用意しています。また起こる可能性がある。みんながまだ今の状態信じられない。毎日生きてきたけど、まだ不安を乗り越えられない」。日本語がかなり堪能なビクターさんですが、精神的なこととか深い話だと分かってあげられず、歯がゆく思うこともあるそうです。「生徒も家族が亡くなっている。不安とか悲しさを。見た目は大丈夫だけど、心の中が」。

PROFILE

ビクター・コチャプムさん

タイ生まれ、2歳のとき両親とアメリカ・サンフランシスコへ移住。大学から日本語を学び始める。京都に1年交換留学の経験がある。現在、田野畑村の外国語指導助手。29歳。



▲物資は入れられるだけ入れ山田町へ



▲毎年みんなが楽しみにしているフィリピン独立記念パーティー

在盛岡フィリピン共和国名誉領事館

つなぎ役を担って

盛岡市に事務所を構えていた東北で唯一のフィリピン共和国名誉領事館が今年6月に閉じました。2006年1月から5年半の仕事や国際交流などについて、同名譽領事の村山正弘さん、秘書のローズ・アギダ・オイゾン・アペーロさんに聞きました。

今回の東日本大震災で家財道具とともにパスポートなどを失くしたケースも多く、震災後は領事館には連日、問い合わせや相談が寄せられていました。アペーロさんは「翻訳もしながら領事業務をこなしてきました。その中でも、大震災以後が繁忙しく、パスポートを津波で流されたけど、安否を知らせるために一度帰国したいとの相談が増えました。この5年半で、連絡をとったフィリピン人の住所や本人写真などをパソコンに入れていましたので、本人確認ができました。そのため、パスポートに代わる1回だけ利用できるトラベ

東北6県に住むフィリピン人のために結婚、出生に関する各種証明書の翻訳、発行受付や認証、旅券の更新などの領事業務を中心に、両国間の国際交流、フィリピン人同士のつながりなどにも力を入れてきました。岩手県内には、約9000人のフィリピン人が暮らしています。農業や漁業を営む家に嫁ぎ、子どもを生み、各地域の住民として暮らしている女性も少なくありません。結婚や出産、里帰りなどで証明書が必要になることがあります。

これまでは、申請のために、東京の大使館まで行かなければなりませんでした。盛岡で手続きができ、特に北東北に住む人にとって利便性が向上し経費面でも助かっています。

今回の東日本大震災で家財道具とともにパスポートなどを失くしたケースも多く、震災後は領事館には連日、問い合わせや相談が寄せられていました。アペーロさんは「翻訳もしながら領事業務をこなしてきました。その中でも、大震災以後が繁忙しく、パスポートを津波で流されたけど、安否を知らせるために一度帰国したいとの相談が増えました。この5年半で、連絡をとったフィリピン人の住所や本人写真などをパソコンに入れていましたので、本人確認ができました。そのため、パスポートに代わる1回だけ利用できるトラベ



▲フィリピンのスナック菓子でおもてなし



▲お酒が並ぶ店内

TEX-MEX料理 SUNDANCE

どんなときでも、みんなの「居場所」

外国人の常連客が多い盛岡市大通の「TEX-MEX料理 SUNDANCE」(以下サンダンス)。震災直後の混乱のなか、多くの外国人がここに集まり、情報交換の拠点となりました。みんなの「たまり場」は、「いざというとき、頼りにできる場所」でもあったのです。

「自分にとって大切なものは何か。周りの人たちがどれだけ大切に思ってくれていたのか。あの震災で、気づいたことがたくさんあります。あの非常時にみんながこの店を頼りにしてくれたことは、とてもうれしいことでした。」

そう話すのは、盛岡市大通にある「サンダンス」のオーナー、水本仁史さん。ヨーロッパのバブのような雰囲気を持つこの店は、外国人にとって社交場の存在です。気軽に立ち寄り、いろんな人と話ができる、人脈が広がる。そんな「たまり場」を頼って、震災後も多くの在住外国人がここに集まりました。

「電気が復旧し、店の明かりをつけて片付けをしていたら、外国人の常連さんが次々やって来たんです。飲食をしに来たというより、情報がほしい、誰かと一緒にいたい、そんな感じでした。」

当初「こんな時に店を開けることは不謹慎なのでは」と考えていた水本さんですが、店に来る外国人たちの不安げな様子に「今自分ができるのは、みんなの居場所をつくること」と、営業再開を決意。次第に日本人や海外からのボランティアも集まるようになり、情報交換の場になっていきました。

一方、日々深刻化する震災や原発事故を受け、母国に帰った外国人もたくさんいます。水本さんは、新幹線が復旧せず秋田空港経由で帰国する人のために、乗り合いタクシーを手配するなどのサポートをしました。

「いざというとき、頼りにできる」のは、それまでの信頼関係があるからこそ。「二人でも、一杯でも気軽に立ち寄れる、日常の身近な存在であり



▲お店の入り口



▲「ここで暮らす人も、今は遠くにいる人も、いつ来ても変わらないね」と言ってくれる、ホームのような場所でありたい、と思っています」と水本さん

TEX-MEX料理 SUNDANCE

〒020-0022
盛岡市大通2丁目4-22
サンライズタウン 1F・2F
TEL:019-652-6526

Rose Agueda Oyzon Apeloさん

ローズ アギダ オイゾン アペーロ
フィリピン大学を卒業後、在フィリピン日本大使館のインターンを経て、名誉領事秘書として来日。「交換留学で関西にいたこともあります。20代後半を岩手で過ごしました。食べ物も合うし、岩手の人が好きなんです」



村山 正弘さん

株式会社GINGAインターナショナル代表取締役社長。懇意にしていたオブレ前外務大臣の依頼を受け、名誉領事に。無報酬のため私財で領事館を運営してきた。震災による本業への影響とフィリピン大使館の意向によりやむを得ず閉鎖。「需要はあるのに非常に心苦しい」

平成22年度の事業および財務の状況 公益財団法人岩手県国際交流協会

■平成22年度の事業報告

協会は、新しい公益法人制度の下での公益財団法人へ移行する準備を進めながら、厳しい財政環境の中、寄附者や賛助会員のご支援をいただくとともに、経費の節減や業務の効率的遂行に努め、関係機関・団体、サポーター等の皆様との連携・協働により、協会の活動基本方針である「国際理解の推進と次代を担う地球市民の育成」、「地域レベルの国際化の推進と環境づくり」及び「外国人の自立支援と共生の促進」の3本柱に基づいて国際交流・国際協力・多文化共生の各種事業を実施しました。

その中で特に、国際交流関係団体や在住外国人、ボランティアの皆様との協働により実施した「ワン・ワールド・フェスタいわて」には多くの皆様の参加をいただくことができました。また、平成22年度から開設した「いわてグローバルカレッジ」に対しては、参加者の皆様から高い評価をいただきました。さらに、外国人からの様々な相談に応ずるとともに、日本語サポーターや多言語サポーターの育成・登録、活用を進めながら、多文化共生社会の形成に向けて意欲的に取り組みました。

なお、平成23年3月11日に東日本大震災が発生したことにより、協会でも可能な被災者支援活動を行いました。一方で当初予定していた一部の事業の実施については中止や変更を余儀なくされました。

■平成22年度の寄附金・賛助会費の受入れと使途

平成22年度中に協会が受け入れた寄附金と賛助会費の総額とそれらの使途は、下記のとおりです。皆様からいただいたご厚志に心から御礼申し上げます。

- 1 受入総額 1,408,000円
寄附金4件 92,000円(基本財産寄附金 3件 90,000円、一般寄附金 1件 2,000円)
賛助会費 1,316,000円(277人、49団体)
- 2 使途
 - (1) 基本財産へ繰り入れ 90,000円
(寄附金の指定使途に従い協会の基本財産に繰り入れ、将来にわたって事業活動に活用してまいります。)
 - (2) 平成22年度の公益目的事業に活用 1,318,000円
(情報紙「Jien go」の発行、外国人相談の実施、いわてグローバルカレッジの開催、ワン・ワールド・フェスタの開催、外国人との交流会「ちゃっとランド」の開催、国際交流団体等の活動事業助成など、平成22年度に実施した公益目的事業の経費の一部に活用させていただきました。)

■平成22年度正味財産増減計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで) (単位:千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益	63,818	87,519	△23,701
基本財産運用益	14,579	20,820	△6,240
特定資産運用益	887	1,940	△1,053
受取会費	1,316	1,250	66
事業収益	20,230	25,673	△5,443
受取補助金等	26,404	30,800	△4,395
受取負担金	150	169	△19
受取寄附金	2	40	△38
雑収益	247	83	163
投資有価証券評価益	0	6,740	△6,740
(2) 経常費用	68,941	78,024	△9,083
事業費	36,367	48,936	△12,569
管理費	32,574	29,088	3,486
当期経常増減額	△5,123	9,494	△14,617
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	54,585	0	54,585
投資有価証券売却益	54,585	0	54,585
(2) 経常外費用	2,009	0	2,009
投資有価証券売却損	2,009	0	2,009
当期経常外増減額	52,575	0	52,575
当期一般正味財産増減額	47,452	9,494	37,958
一般正味財産期首残高	44,294	34,800	9,494
一般正味財産期末残高	91,747	44,294	47,452
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	90	150	△60
基本財産運用益	70,342	20,820	49,521
基本財産評価損	51,047	17,480	33,567
一般正味財産への振替額	△69,164	△20,820	△48,344
当期指定正味財産増減額	△49,780	△17,310	△32,470
指定正味財産期首残高	1,027,421	1,044,731	△17,310
指定正味財産期末残高	977,641	1,027,421	△49,780
III 正味財産期末残高	1,069,389	1,071,716	△2,327

東日本大震災被災地実例研修会 での報告から

平成23年5月26日に開かれた岩手県国際交流関係団体連絡会議の研修会で、被災地の国際交流団体や日本語教室の方に被災状況や復興支援の様子を報告していただきました。その中から外国人や国際交流の現状についてご紹介いたします。



報告者

オーシャンズ宮古国際交流倶楽部
代表

佐々木匡人さん



4月14日から日本語教室を再開しました。宮古弁かるたなどで楽しんでいます。震災以降夜道を一人で歩けなくなり教室を休んでいる外国人もいます。日本人から助けを求められた

のに何もできなかったといいます。家ごと津波に流され亡くなった外国人もいます。亡くなった方は、警報の内容が聞き取れなかったのか、避難場所が分からなかったのか検証が必要です。

復興の支援に来る外国人たちもいます。いるだけでその場を和ませてくれます。しがらみがない「外国人」だからこそできる癒やしの効果かもしれません。

報告者

釜石市国際交流協会
事務局員

加藤 直子さん



外国人を受け入れる港町の土地がある釜石市。津波で緊急上陸したフィリピン人の船員さんは、タガログ語での意思疎通ができなくても、周りの日本人が助けてくれておにぎりももらえました。日本人と結婚して日本名になっている外国人もいて、名簿だけでは外国人がどこに避難しているか分かりませ

ん。「わたし日本人だもん」と、地域に解け込み、なじんで頑張っている外国人もいます。外国人も日本人も一緒だと思います。これが国際社会ではないでしょうか。

市の災害対策本部で、以前外国語指導助手をしていたジェフリーとジョシュアにばったり会いました。なぜここにいるのか聞いたところ、神奈川県から駆けつけたといいます。二人はしばらくボランティア活動をしていきました。絆だよなと思いました。

報告者

元陸前高田市国際交流協会
日本語教室講師

大和田加代子さん



陸前高田市の日本語教室には、国際結婚で来日した外国人たちが参加しています。外国人からは、避難所で心ない言葉に胸を痛めたという相談がありました。仕事を失くした人、子どもを亡くした人、親戚の遺体を見て不眠になった人もいます。彼女たちは生活が地域に根差しているからこそ帰国しな

いでここにいます。

津波で流された家をマスコミではがれきと言っていますが、あれはがれきではありません。私たちの生活そのもの、生活していた証です。

たまたま会った外国人の声を聞き、4月23日に焼肉パーティーをしました。避難所や支援物資保管場所になっていない施設を探すのに苦労しました。当日は一人ひとりを迎えに避難所を回りました。身近で外国人を気にかけて心配している日本人がいることを分かってくれたと思います。

この3人の方たちには現在「被災地外国人相談員」として、協会と連携し、在住外国人の相談、支援に関する情報提供などにご協力いただいております。

ニ それ、
野村にきいてみよう。

野村證券 盛岡支店

020-0022 盛岡市大通二丁目2-18(大通商店街)

TEL: 019(653)5000(代)

野村證券ホームページ <http://www.nomura.co.jp/>



SMBC日興証券

盛岡支店

〒020-0021 盛岡市中央通1-7-25

(中央通1丁目バス停前)

TEL: 019-625-2525 www.smbcnikko.co.jp

Autumn Campaign

フリーチャット

Tue, Wed, Thu, Fri 1:00-3:30

～ラウンジ無料開放中～



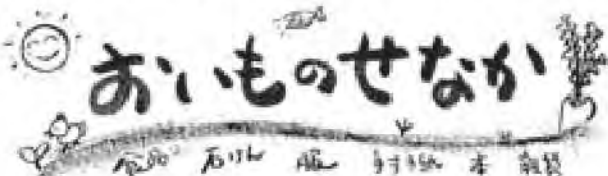
ホームページ <http://oasis-ala.net/>

TEL 019-652-7988

盛岡市中央通2丁目7-12ビル2F

英会話スクール
OASIS

エコロジー&フェアトレード! の専門ショップ



花巻市上小舟渡 166-2 ☎0198 (22) 7291

火曜定休(祝日営業) 9:30~18:30

http://www.geocities.jp/oimono_senaka/